

県中教育

随想 言葉

県中教育事務所長 福地 裕之



人は、文章を読むときに「言葉」の真の意味を考えながら、筆者の思いを読み取ります。

人は、話すときにたくさん「言葉」の中から、自分の気持ちに一番合った「言葉」を使って相手に伝えます。

人は、聞くときに相手がこの「言葉」を使って自分の気持ちを伝えようとしているのだからと理解します。

人は、書くときに自分のお気に入りの「言葉」を使って表現します。

「言葉」とは、無限の可能性を秘めたすばらしい宝物であると思います。

国語の授業、「筆者の思いに迫る」

「言葉」に着目して、「言葉」にこだわり、「言葉」を比べ、「言葉」を読み破き、「言葉」にひたる。「言葉」から筆者の思いが少し見えてきた。友に伝えたくて、伝えたくて仕方がない。友に伝えた。友からも伝えられた。そんな読み方もあるのだと思った。

もう一度、「言葉」を見つめてみた。

ジイ ト！

もっと、見えてきた。そして、もう一度、筆者の思いに迫ってみた。最終的にこれだ！と思い、みんなの前で発表した。先生は、ニコッと笑って、うなずくだけだった。

最後に先生が、先生の考えた筆者の思いを話してくれた。私はマイッタと思った。さすが先生だ！私もあんな先生になりたい。

授業づくりにおいて、たどり着くのは、やはり、教材研究である。

まずは、教材文をじっくりと読んでみる。何度も何度も読んでみると不思議にココを教えるべきだという所が見えてくる。そして、教えるべき内容をどの「言葉」から読み解いていくかを決める。さあ、あとは料理の仕方だ。

指導資料を開くのはそれからいい。私たちはもしかしたら、「教材の価値を発見する楽しさ」や「教材を解釈することのおもしろさ」の感動を忘れてはいないだろうか。

ある先生の言葉。「授業の質を高めるのは、畢竟、授業者の教材についての造詣の深さと教材に対する愛着の深さである。」と。

さあ、もう一度教材を読んでもみよう！



編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所

発行責任者
福地 裕之

編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

あいさつをしよう

田村市教育委員会教育長 飯村 新市



若かりし頃三年間の勤務経験がある田村市（当時は船引町であつた）の教育長に就任して、何とか四月が過ぎようとしていたが、思い描いていたよりは忙しい。土日に社会教育や生涯学習関係の行事が目白押しで、教員時代のこれまでの生活リズムや習慣とは異なるからだと思う。イベントや会合の折にあいさつや祝辞を述べることになるが、その対象がスボ少年などの子ども時は、よほど良いが、大人の方の時は、なんとも弁が進まず、ついつい担当課で用意したあいさつ文を頼りにする。

子どもは大人より、話を真剣に聞いてくれるものと思いついてきたが、大人の方、特に高齢の方の眼差しや表情、反応に圧倒されることがあり、子どもたち以上であることがわかった。私の認識が変わった。高齢の方々へ話をする際には、これまで以上に準備をし、

まず聞いてもらい、さらに印象に残る話ができるよう、話題集めや話し方について改めて研鑽を積む必要性を感じている。

ところで、「あいさつをしよう」というのは、田村っ子のルール十の一番目に掲げられている。挨拶と言っても礼儀として行われる定型的名言葉や動作のことであるが、挨拶の意味を禅宗では、「出会った人が心を開いて相手に迫っていくことだ」とされている。声を出して挨拶をすることにより、お互いの距離が近くなり、話しやすい雰囲気生まれる。「顔を見て挨拶する」この行動だけで相手との関係も円滑になること請け合いです。

この挨拶の励行を田村市のルールの一項目にしているという事は、重要度が高いと認識しているが、現実には満足できる実践までには至っていない。まずは気持ちの良い心を開いた挨拶で満ち溢れる田村市を目指していきたい。

ルールの二番目、「はつきりとした声で返事をしよう」と、ルール十は続く。

「平成三十年度子ども読書活動優秀実践校（文部科学大臣表彰）」としての取組について
郡山市立芳賀小学校

本校の子どもたちは、図書室が大好きです。一人でも多くの子どもたちが図書室に足を運び、一冊でも多くの本に出会い、幅広く読書に親しむことができるよう、工夫を凝らしています。

一 並行読書コーナーの設置
教科との関連を図り、随時単元で必要な図書や資料を各学年の廊下に設置し、幅広い読書を奨励しています。

「読んで、書いて、お題を、作品を、名前を、自分の、大きな、魚に、変身させます。」
スミレ、オレオレ、魚、貼



二 発達段階にあった本に親しませる工夫

・推薦図書（二十五冊）

ピンゴ形式で意欲を喚起し、全て読み終えると「完読賞」として表彰します。

・推薦図書第二弾

「この本読もう」

推薦図書を完読した児童には、国語の教科書にあるおすすめの本をまとめたリストを配り、新たな読書目標を与えています。

三 「たくさん本をかりたで賞」の表彰
学期ごとに、図書室の開館日数の七割以上の本をかりた児童に、校長から表彰します。

四 楽しいイベントの開催
・しおりコンテスト（六月）
・本のイラスト募集（九月）
・読書まつり（十一月）

「学びのスタンダード」推進事業
パイロット校としての取組について
小野町立小野中学校

「学びのスタンダード」推進事業のパイロット校として二年目の取組がスタートしました。主な取組を紹介したい。

数学科（全学年）における「縦持ち」では、習熟度別指導を行っている。一つの学年を三クラス（三学年は四クラス）に分け、個に応じた指導を目指している。また、教

読書郵便、本の題名しりとりに、じゃんけん貸し出し、キヤクタークイズなど、図書委員が中心となって盛り上げています。

・図書おみくじ（一月）
五 地域人材の活用

「図書ボランティア」
年度末に次年度のボランティアを募り、読み聞かせと本の修理を行っています。

入学当初から図書室を利用する子どもたちにとって、図書室はとても身近な存在です。これからも、子どもたちが本に親しめる環境を充実させていきたいと考えています。



活用のために校内研修を公開を含め年五回開催で計画している。うち、授業研究会は三回行う。七月には、福井大学の風間寛司氏を招聘し、「家庭学習スタンダード」も含めた活用について学ぶことができた。加えて毎回、義務教育課、県中教育事務所からも指導助言をいただいている。新学習指導要領のことにもふれた内容は今後十年、生かされる知見である。

「互見授業」を推進するにあたり、一つの単元を取り上げ、まずは単元構想表を作ることから始めることになった。各教科での見方・考え方を生かした主体的・対話的で深い学びを実践するために単元をしっかりと作り、「授業スタンダード」のどの部分を重点化して実践するかということが焦点化することが大切になる。「互見」の部分で授業者も参観者も何を大切にしようとした授業なのか共有できるように

なものにしていきたい。

二十九年度の全国学力・学習状況調査では、国語A・B、数学A・B共に全国平均を上回っているものの、各問題ごとに達成率の差が大きい。設問ごとの状況を把握し指導を重点化する必要がある。「授業スタンダード」と併せて県で出される予定の「授業改善ブランドデザイン」の分析を生かし、日々の授業改善に役立てていきたい。やみくもに学力向上を唱えるだけではなく、「学びのスタンダード」推進事業を核として、「少人数教育」「特別支援教育」等、様々な教育活動が関連していることを我々教師が実感できることがよりよい教育効果をもたらすと考えている。「チーム小野」を合い言葉に一歩ずつ進んでいきたい。



新任副校長。主幹教諭。初任者の声

新任副校長として

郡山市立大成小学校
橋本ゆかり



「副校長先生」と声をかけてくる一、二年生。

笑顔がかわいらしい。でもいいにくそう。何か良い呼び方はないか。などと考えているうちに一学期も終わるうとしている。
下校指導で「また明日」と声をかけるとなぜかハイタッチをしてくる。中学校勤務しか経験のない身には、何が何だかわからない。「副校長先生は何をする人なの？」とストリートに聞いてくる児童もいる。上手く即答できず、「何してると思う？」と逆に聞いてみた。「毎日あちこちを歩つてるから学校の点検！」なかなか鋭い観察眼である。一年生に聞いたら、多分「一緒に遊ぶ人」と答えるのだろう。日々手探りの新しい職務だが、その分可能性だらけでわくわくし、新しい発見のある毎日である。「副校長」がいてよかったと子どもたちや職員・保護者の皆様に少しでも思ってもらえるよう今日も歩き回ってみよう。子どもたちの笑顔を一層輝かせることができるといい。

新任主幹教諭として

鏡石町立第一小学校
須田 智美



昨年の夏、主幹教諭のお話を校長から聞いたのだ。

き、お世話になった先生方が走馬燈のように浮かんできました。何もわからず、毎日失敗の連続だった二十代。研修と経験を積んだ三十代。あの日あの時、ご指導いただいたことを伝え広め、お役に立ちたいと思い、この度志願いたしました。
この四月、同一校内で昇任させていただき、主幹教諭として勤務しています。校長や教頭の指導の下、分掌間や学年間の調整を図り、学校の諸問題の解決に取り組んでいます。右往左往する度に、担任として全力で取り組めたのは、上司をはじめ事務の先生など、担任外の先生方に支えられていたからこそとつくづく感じています。また、忙しい先生方の一助になればと思いい、「主幹だより」を発行しています。初志である「感謝」を忘れず、教諭時代以上に研修に励み、意欲を持って精進したいと思うこの頃です。

初任者として

石川町立石川中学校
室井 温子



四月に石川中学校に教諭として赴任し、あ

つという間に三ヶ月が過ぎました。今までとは違う環境のため、考え方だけでなく働き方も変えなければならず、忙しさと共に難しさも感じています。それでも、毎日先生方から多くのことを教えていただき、この石川に勤められたことに感謝しています。
研修時に、地域社会のために汗を流す、仕事に慣れるよりも人に慣れる、向上心を持ち続ける、とお話いただきました。学校という限られた場ではありますが、地域と一体となつて生徒を育てていくことを心がけ、わたし自身が謙虚に努力し続けなければならぬと強く思います。
目の前の生徒たちは、保護者、地域、社会からの願い、そして未来を背負っています。生徒たちが、明るく生き生きと過ごせる未来を自分自身で切り開いていけるよう、その手助けができる教師でありたいと考えています。

三か月を振り返って

あぶくま支援学校
遠藤 康明



特別支援学校の教諭として働き始めて早

三か月が過ぎました。緊張や不安も沢山ありますが、周りの先生方に丁寧な御指導いただいたり、同期の先生方に助けていただいたりしながら充実した日々を過ごしています。
生徒と過ごす毎日、何もかもが新鮮で、そこから学べるべきことが多くあります。どんな接し方で、どんな伝え方で、どんな方法で支援すれば生徒の力を最大限に引き出せるかを悩む日々ですが、生徒の成長する姿や、生徒の笑顔を見ると自然とやる気が湧いてきます。私は、生徒の目線に立ち、「よく見て」「よく考え」生徒に寄り添いながら具体的な指導・支援の方法などを考え、特別支援学校の教員としての専門性を高めていきたいと考えています。
生徒たちが充実した学校生活を過ごし、卒業後、自信をもって社会に飛び立てるよう、一人でも多く、一つでも多く生徒の力を引き出すことのできる教員を目指していきたいと思えます。

幼稚園教諭として

小野町立小野わかば幼稚園
吉田 美佳



幼稚園教諭として小野町立小野わかば幼稚園に勤めて

三か月が経ちました。新しい環境に戸惑うこともとても多く、園の先生方にたくさん助けていただいていた無事に三か月を過ごすことができました。
子どもたちも四月に入園して、三か月が経ち、園での生活にも慣れてきました。元気いっぱいの子もたちは、遊びも活発でいろいろな発見をし、私自身、子どもたちから学ぶことがたくさんあります。これから子どもたちの学びと成長の援助ができるよう子どもたちが主体の教育を目指して日々学び、実践していきたいと思えます。
今後の初任者研修では、先進的研究実践園の参観等、たくさん勉強させていただく中で自分の指導に足りないものを学び、実際の指導に生かしていきたいです。日々試行錯誤を繰り返して、より良い環境作りを目指し努力し続けていきたいと思えます。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課
社会教育担当より

「読書活動支援者育成事業(研修A)」

子どもの読書活動推進に向けて、各地域で活躍する新規の読書活動支援者の育成をねらいの一つとして、六月二十日、郡山市労働福祉会館において開催しました。図書館司書やボランティア、小中学校教諭や学校司書、読み聞かせ団体等多くの参加がありました。朗読劇サークル「アグリダックス」による朗読劇の実演、平成二十九年度子ども読書活動優秀実践校である郡山市立喜久田小学校の学校司書郡司都子氏から「魅力ある学校図書館づくり」として、実践を発表いただきました。文教大学准教授平正人氏による「読書でつながる『人と人』」もうひとつのピリオパトル」では参加者が実際にピリオパトルを体験し、新たな本への親しみ方に触れることができました。参加者からは、「現場ですぐに実践したい」、「とても楽しく演習できた」などの声を聞くことができました。

「親子の学び応援講座」

この講座の目的は、子どもたちのよりよい成長のために親自身が果たすべき役割につ

いて学ぶ講座をPTAと連携して行うことで「親の学び」を支援することです。

今年度は、県中域内の課題となつている「親子のコミュニケーション」「子どもの体力向上」等に視点を当て実施します。

六月十七日(日)、小野町立浮金小学校PTA親子ふれあいDAYで「子どもたちを健康に導く運動プログラム」、六月二十四日(日)、三春町PTA連絡協議会交流会で「情報モラル・メディア講演会」を行いました。

浮金小学校では、親子で一緒に運動することで、楽しみながらコミュニケーションを図ったり、体を動かすことの楽しさを体験したりすることができました。三春町では、スマホ社会の現状を知り、対処法や心がけることについて考える機会となりました。今後PTAと連携を図り、講演会や体験会を実施する予定です。



学校教育課管理担当より

期待に応える学校経営のために

保護者や地域の期待に応える学校経営を展開するために、その基盤として、職員が心身ともに健康で勤務できる環境づくりと学校事故防止の徹底を図ることが重要です。

・職員の心身の健康のために「コミュニケーションを密にして同僚性を高め、風通しをよくする。」

・勤務時間の適正化を図るとともに、リフレッシュができる環境を整える。

〈学校事故防止のために〉

・学校施設設備の安全点検を徹底し、危険箇所の早期発見に努め、不法侵入等の防止を図る。

・計画的に防火診断を実施して防火体制を強化し、学校火災の絶無を期す。

これらの取組を確実に実施するものにするためには、マンネリ化を防ぎ、各学校の実態に応じた工夫を取り入れていくことが必要です。

県中教育事務所としましては、よい手立てにつながるよう市町村教育委員会との連携を密にし、研修機会の充実や情報提供に努めていきます。

学校教育課指導担当より

「ふくしまっ子児童期運動指針」の活用

県中教育事務所では、子どもが望ましい運動の在り方や、一日の生活の中で運動量を増やす工夫、自分手帳の効果的な活用方法、さらに運動身体づくりプログラムの効果的な実施方法を掲載した「ふくしまっ子児童期運動指針」の活用について、各小学校に依頼し推進しています。

この指針は、生活環境の変化による運動機会の減少が県内の子どもたちの体力・運動能力に大きな影響を及ぼしていると考えられることから、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト支援委員会が平成三十年三月に作成し配付したものです。

小学校・義務教育学校(前期課程)においては体育の授業はもとより、様々な教育活動の中でこの指針を活用しながら、子どもたち一人一人に望ましい運動習慣を形成することを願っています。

また、中学校・義務教育学校(後期課程)及び高等学校では、小学校での指針の活用を踏まえ、各校の実態に応じた効果的な体力・運動能力向上の実践と健康教育の推進を願っています。

「ふくしま外国語教育推進リーダー」事業

本事業は、外国語教育を専門とする「ふくしま外国語教育推進リーダー」の育成と活用をとおして、小学校・義務教育学校(前期課程)における外国語教育の充実を図ることを目的としています。県中域内においては、石川町立石川小学校教諭の慶徳ひろ子先生が推進リーダーを務め、専科教員として石川小学校・沢田小学校・野木沢小学校の三校で四百名の児童を指導されています。児童の興味・関心に基いた多種多様な言語活動により、英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る素地が身に付くよう、工夫されています。

各小学校の先生方におかれましては、再来年度の新学習指導要領全面実施に向け、外国語活動・外国語科の目標や指導内容・指導方法等に対する理解を深めています。また、現職教育において外国語活動の効果的な指導の在り方を研究主題に据え、授業研究をとおして先生方の指導力向上に積極的に努めている学校もあります。推進リーダーの授業実践から得られた成果を、石川町内の小学校のみならず、県中域内の小学校の先生方に広げていけるよう県中教育事務所としてもサポートしていきますので、よろしくお願ひします。